教師の仕事を知る③

高校教師の心得

第❽回

進路指導・キャリア教育

監修
服部 次郎
（はっとり・じろう）東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭，同校長，筑波大学教授などを経て，2006年４月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

進路指導とは

生徒の進路相談に対応したり，進路選択に役立つ資料を整えたりする教師の仕事を進路指導といいます。進路指導は，学校教育の大きな分類では生徒指導の一部分ですが，校務分掌の中では，生徒指導部からは独立した進路指導部として活動しています。

学校教育は，大きな社会全体の仕組みから見れば，個人の人格の完成を目的としながら，同時に次代の社会の働き手を育成する役割を担っています。ですから進路指導は，生徒の適性や興味・関心と職業選択を適合させる指導をしたり，職業選択に有効な上級学校の専門分野に進学させたりして，将来の社会の働き手を送り出す役割を担ってきました。現在でも，そのような進路指導は重要な教育活動なのですが，近年，もっと大きな視点からの進路指導が必要であると考えられるようになってきました。

若者の現状とキャリア教育の必要性

社会情勢や雇用情勢の変化の中で，60万人超に及ぶ若年無業者，170万人超に及ぶフリーターの存在や，高い離職率，具体的には中学校卒で約７割，高校卒で約５割，大学等卒で約４割が就職後３年以内に離職するという状況が生じています。これは若者に健全な勤労観・職業観が身に付いていないからではないか，つまり「人が生きることはすなわち働くことであり，働くことによって，人は自らを生かし，同時に社会に貢献する」という基本的な考え方が，学校教育において十分に育成されていないからではないかと考えられるようになってきました。

そこで，10年ほど前から，生徒の卒業後の進路を指導する従前からの「進路指導」だけではなく，生涯を通して働き続ける意欲と能力の育成，すなわち健全な勤労観・職業観の育成を目指す「キャリア教育」が必要であると考えられるようになりました。今日では，学校全体で取り組む「キャリア教育」の重要な一部分が「進路指導」であると考えられています。

キャリア教育とは

2009（平成21）年７月に，中央教育審議会のキャリア教育・職業教育特別部会は「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」という審議経過報告を発表しました。その中では，キャリア教育を「社会的・職業的自立に向け，必要な知識，技能，態度をはぐくむ教育」と位置付けています。また，06（平成18）年11月に文部科学省が出した「キャリア教育推進の手引」では，キャリアとは「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と定義しています。簡単に言えば，働くことを中心として，職場や家庭や地域社会において個人が築いていく生活の歴史をキャリアというのです。ですからキャリア教育とは，「生涯を通じて，社会的・職業的に自立して，働き続ける意欲と能力を養う教育」ということです。キャリア教育でどのような能力を育成するかについては，現在さまざまに検討されていますが，一例として国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは，「４領域８能力」（表）を示しています。

高校はキャリア発達の重要期

人は生涯のそれぞれの段階で，社会とかかわりながら自分の生活を築いていきます。それぞれの段階には果たすべき課題があり，それを１つずつ乗り越えて新しい生活を築いていくことが，キャリアを発達させるということです。キャリア教育は，そのような一人ひとりのキャリア発達を支援するものとして，義務教育から発達段階に応じた取り組みが必要ですが，高校教育では成人の直前として社会人・職業人としての自立が迫られる時期であり，「働くこと」への積極的な意欲や能力の育成を目指すキャリア教育が特に重要です。

総合学科とキャリア教育

1994（平成６）年度に，普通科・専門学科に並ぶ第三の学科としての総合学科が全国の７校に設置されました。その後年々増大して，開設16年目の今日では全国に344校の総合学科高等学校が設置されています。

進学にも就職にも対応できることを目標として設置された総合学科は，①将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視すること，②生徒の個性を生かした主体的な学習を通して，学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること，を特色としています。要約すれば「自己の進路への自覚に基づいた主体的な学習に取り組むこと」，すなわち，今日の最も重要な教育課題であるキャリア教育を骨子として創設された高等学校といえます。

総合学科では，生徒に自己を見つめさせ，職業や産業について学習させ，将来の生き方や在り方を考えさせ，自らの進路に応じた科目選択をするための授業，すなわち「産業社会と人間」という科目を開発して実施しています。この「産業社会と人間」が，今日のキャリア教育に有効な科目として注目されています。

表　キャリア発達にかかわる「４領域８能力」

４領域	８能力
人間関係形成能力	自他の理解能力
	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力
	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力
	計画実行能力
意思決定能力	選択能力
	課題解決能力

（文部科学省「小学校・中学校・高等学校　キャリア教育推進の手引」〔2006=平成18=年11月〕より作成）

学習指導要領における「産業社会と人間」

総合学科の原則履修科目として始まった「産業社会と人間」ですが，キャリア教育の重要性の高まりとともに，平成11年の学習指導要領改訂の際に「学校設定教科に関する科目」として明示され，平成21年３月告示の新しい高等学校学習指導要領においても引き継がれています（第１章「総則」第２款　５「学校設定教科」）。「産業社会と人間」は，普通科・専門学科においても開設することが可能であり，先に挙げた中教審特別部会の報告では，キャリア教育推進のためには「産業社会と人間」のような科目を，すべての高等学校の教育課程に明確に位置付けることも必要ではないかと述べています。

〈参考文献〉服部次郎編著『産業社会と人間（新訂版）―よりよき高校生活のために』（2007年，学事出版）／服部次郎編著『産業社会と人間　実践の手引』（2004年，学事出版）

Point!

①近年の社会情勢の変化の中で，「キャリア教育」が重視されている
②キャリア発達にかかわる「４領域８能力」を理解しよう
③高校段階では，働くことへの意欲・能力を育成するキャリア教育が特に重要
④科目「産業社会と人間」が，キャリア教育に有効と注目されている

☆次回は校務分掌・服務を取り上げます。